

令和5年度第2回伊勢市市民公益活動促進委員会 議事録

日 時：令和6年2月19日（月）14時00分～15時30分

場 所：オンライン開催

出席委員：

委員長 池 山 敦 氏 （皇学館大学 教育開発センター准教授）  
副委員長 藤 岡 喜美子 氏 （(公社)日本サードセクター経営者協会東海支部長）  
秋 山 則 子 氏 （NPO 法人三重みなみ子どもネットワーク 理事長）  
川 北 輝 氏 （津市市民活動センター センター長／  
NPO 法人津市 NPO サポートセンター 理事長）  
中 川 眞由美 氏 （明倫地区まちづくり協議会 会長）  
中 森 忠 司 氏 （伊勢市社会福祉協議会 地域福祉課 課長）  
江 崎 明 裕 氏 （伊勢商工会議所 企画推進室 課長）  
日 置 純 子 （伊勢市環境生活部市民交流課 副参事兼男女共同参画係長）

【いせ市民活動センター指定管理者】

特定非営利活動法人 いせコンビニネット

増 川 尚 男 （事務局長）  
西 川 恒 夫 （いせ市民活動センター長）  
浦 田 宗 昭 （いせ市民活動センター企画部長）

【事務局】

小 林 進 （市民交流課 課長）  
上 村 静 香 （市民交流課 主幹兼市民交流係長）

1. 令和5年度いせ市民活動センターの管理運営状況 中間報告について

※（委）＝委員 （指）＝指定管理者 （市）＝伊勢市

（指）（資料（中間報告書）に沿って令和5年度上半期の管理運営状況について説明。）

（市）（補足として、ZTV行政チャンネルの動画（指定管理者が企画出演し、災害支援金について説明したもの）を紹介。）

（委）まちづくり協議会（以下「まち協」）への働きかけは、広報紙パルティを渡す以外に何かしているか。

（指）役員会や事務局を訪問し、いせ市民活動センターの事業内容を説明している。市主催の「ふるさと未来づくり意見交換会」の席でも当センターの事業紹介をさせていただいた。

（委）まち協は自分たちの事務所を持っているし、貸室などを利用する必要がないのでは。

(指) まち協本体ではなく、構成団体の中に活用していただけそうな団体がいる。実際に当センターの登録団体として印刷機を利用したり、いせ市民活動フェスティバルに実行委員として参画したり、ご利用いただいている構成団体もいる。

(委) まち協とは、一緒に何かしようと呼びかける方がいいと思う。

(指) 次回行ったときはそういう話もさせていただく。

(委) 自分の所属するまち協へもお越しいただいた。事務局長の方で対応したが、「足りていないところを補えれば」という趣旨でお話しいただいたと伺っている。役員会や総会にお越しいただいて、一緒に何かできたら。

(委) 特別事業の中で、非接触型体温計やカメラ・スピーカーフォンの無償貸与は登録団体のみか。

(指) 原則は登録団体のみ。ただし、ご事情をお聞かせいただければ考慮はする。

(委) ZTV行政チャンネルの動画が良かったのでこちらでも活用したい。リンクを貼れないか。市の別事業で行政チャンネルの動画を活用させていただいているので、確認を。

(市) リンクを貼れるように調整する。

## 2. 能登半島地震にかかる被災地支援についての情報共有

※委員、指定管理者、市で以下のとおり共有。

以下、共有された内容を組織別に記載。

三重県以外の組織は本委員会出席者が所属している。

### 【三重県】

三重県災害ボランティア支援センター（MVSC）を設置。

三重県全体として、輪島市を支援することになっている。

災害ボランティア団体バンク登録制度と災害支援団体への助成金制度の運用を開始。

### 【三重県災害ボランティア支援センター（MVSC）】

随時理事会を開催し、現地協働プラットフォーム会議にインターネットで参加している。

#### 【伊勢市】

輪島市への支援として、災害対策本部運営支援、消防、インフラ関連、衛生管理、応急危険度判定等、職員を随時派遣している。

#### 【伊勢市災害ボランティアセンター】

常設の災害ボランティアセンター（以下「災ボラ」）を伊勢市と伊勢市社協の協働で運営している。

1月に災ボラ（市と社協）、伊勢市ボランティア連絡協議会、いせ市民活動センターで募金活動を実施。1時間×2日間で約50万円が集まった。

#### 【伊勢市社会福祉協議会（以下「社協」）】

県内社協で手分けして現地入りし、輪島市への支援を行っている、3名体制で7クール目が終わったところ。伊勢市社協は1クール目と9クール目。

#### 【伊勢商工会議所】

現地の商工会議所も被災しているので、日本商工会議所が中心となって支援している。

伊勢商工会議所も、女性部や青年部、また会員事業所単体で、支援の取り組みを行っている。

#### 【NPO法人 子ども女性ネット東海】

避難所の運営支援に入っている。運営支援に入るメンバーは看護師、助産師、保育士等の専門家が多数、避難者一人ひとりの声を聴いて活動している。

支援先は、運営と本音で話のできる、旧知の仲の人のいる避難所に入っている。

今回、「女性リーダー養成講座」の修了生60名のうち、20名が現地での支援を志願している。中にはまち協の役員もいる。お手伝いしながら学んでいただいて、伊勢市が被災した時には活躍できるようバックアップしていく。

#### 【津市市民活動センター】

金沢市に避難している小中高生の学校終了後の居場所づくりをしている団体がいる。コミュニケーションの進む遊び道具が欲しいということで、ボードゲームを送らせていただいた。

#### <意見交換>

（委）現地で支援活動をしているが、市民公益活動が育っている地域と育っていない地域で、

避難所の環境や復旧状況に大きな差が出ている。判断できる人のいない避難所は外部のNPOが入ってサポートしているが、ずっといられるわけではない。

また、避難所は多数派への対応で精一杯で、小さな子どもを持つ家族等、少数派のことまで手がまわらない。そこを自分たちがフォローアップしている。

避難者も、避難所の運営者も、支援者も、補助ではなく自分で責任を持って判断して動ける「女性と子どもの目線」を持った人が少ない。そういう人がいないと、生後数か月の赤ちゃんなど、適切な対応が難しくなる。行政は女性リーダーということに真剣に考えてもらいたい。

現在は、避難所が統合し、少なくなっていく時期。豊かな人から県外に行き、余裕の無い方が残る。

(委) 職員の有志で作っているボランティアサークルがあり、MVSCの災害ボランティア団体バンクに登録したところ、先週災害ボランティア活動の募集案内が来た。被災市町ごとに人数枠を設けてあったが、5分で埋まっていた。

ボランティアは金沢からバスに乗って、それぞれの市町に行くスタイルである。職能ボランティアは現地と直接やりとりしていると思われる。

(指) 現地支援者からの情報によると、災害ボランティアの研修を受けた人がいたところは、避難所に集まった人たちでチームリーダーを作って名簿を作成して・・・という作業ができています。

一方、物資も届かず孤立し、判断できる人がおらず、健康な人が良い場所において不健康な人が廊下にいるような避難所もある。

自律して動けるNPOは直接連絡して被災地入りしている状況。誰もが自由に現地へ入れるのは、冬を越してからになる印象。そのときまで今の関心度を保てるかどうか。能登半島地震の被災地支援は、2、3年かかるのではと思っている。

(委) 地元でイベントをした時、来場者が思い思いに行きたいブースに行ってしまう、会場の統制が取れずカオス状態になった。被災時の避難所もこのような状態になるのではないかと皆で話し合った。

(市) 本日の意見交換、情報共有はとても参考になるものだった。

地域の連携、それぞれのつながりを、大規模発生時にどのように生かしていくか、そんなことを考えさせられたこの1カ月半だった。引き続いて情報共有しながら、この地域で起こった場合に備えて、継続して考えていきたい。

以上